

丸亀市コミュニティ事業 事例集

(平成 28 年度事業)



編 集 丸 亀 市

～ はじめに ～

丸亀市では、早くからおおむね小学校区を単位に、全市 17 地区においてコミュニティ組織が形成され、地域の実情に応じて個性豊かな活動が展開されています。

また近年では、地域に住む人々のふれあいや生きがづくりなどはもちろんのこと、生涯学習、高齢者福祉、交通・防犯、防災、環境保全、子どもの教育・子育てに至るまで、地域社会の抱える諸問題に対応した総合的なまちづくり団体として活動しています。

各コミュニティでは、それぞれ地域の課題に日々向き合い、解決に向けた施策を研究し、またその一方では、市内 17 コミュニティ全体においても定期的な情報交換や話合いの場が持たれ、お互いが高め合う関係づくりに取り組まれています。

本編は、こうした環境下において各地区で実施されている様々な取組の中から、丸亀市地域担当職員がコミュニティとともにいくつかの特徴的な事例を事業紹介カードとして作成し、ひとつの冊子にしたものですので、ご活用いただければ幸いです。

冊子の目次について



コミュニティ 名称・事業名	ページ
明倫の里 城北	
城北防犯パトロール隊	1
ほくほく健康ポイント制度	2
認知症SOSネットワーク	3
天守閣のある町城西	
月見の会	4
むかし遊びの伝承	5
港、ふれあいのまち城乾	
認知症予防対策事業	6
いぬいっ子クラブ	7
ふれあい城坤	
ふれあい城坤 春まつり	8
ふれあい城坤 秋まつり	9
ろくごう夢クラブ(夏休み子ども教室)	10
地域いきいき講座	11
ふれ愛の町みなみをつくる会	
みなみ月見の宴	12
歩け歩け運動	13
八朔だんご馬づくり	14
ひとり暮らしの高齢者訪問(防火診断)	15

住みたくなるまち土器	
青ノ山クリーンハイキング	16
どきっDOKIサマーフェスタ	17
飯野地区地域づくり推進協議会	
米作り体験学習	18
町民室内ペタンク大会	19
川西地区地域づくり推進協議会	
自治会加入率アップ運動	20
夜間避難訓練事業	21
郡家校区地域づくり推進協議会	
ふれあいサロン事業	22
地震発生時の一時待機場所使用に関する協定締結事業	23
やすらぎと生きがいのある町たるみをつくる会	
第22回ふれあいまつり	24
垂水町誌製作事業	25
本島地区地域づくり推進協議会	
本島町合同運動会	26
塩飽本島合同文化祭	27

ふれ愛の町ひろしまをつくる会	
広島ふれ愛まつり	28
塩飽ひろしま島案内人養成事業	29
栗熊コミュニティ	
クリックマンシリーズでまちを元気に	30
栗熊コミュニティまちづくり計画Ⅱ	31
岡田コミュニティ	
だれでもカフェ事業	32
おかだキラキラ夏まつり事業	33
富熊校区コミュニティ協議会	
児童農業体験 さつま芋をつくろう	34
小学校と連携した防災訓練	35
飯山南コミュニティ協議会	
法の郷健康づくり推進事業	36
防災活動	37
生涯学習の推進	38
飯山北地区コミュニティ推進協議会	
学校支援ボランティア促進事業	39
認知症予防事業	40

コミュニティ協議会によって、紹介の事業数が若干異なっております。

コミュニティ事業紹介カード

番号	1	団体名	城北コミュニティ	代表者	鈴木 巖
事業名	城北防犯パトロール隊		事業費	80,000 円	
事業の目的	<p>本事業が発足する頃に城北校区で児童が被害者となる事案が発生したことにより「地域の子どもは自分たちで守ろう」をスローガンとし、様々な防犯活動に取り組むことで「安全・安心の地域づくり」を主要なエリアで取り組むこととした。</p> <p>平成 17 年 8 月 28 日発足式、夏休み明けから活動開始。</p>				
事業の概要	<p>この事業は、全員参加型(自治会、学校関係者等)の防犯活動を推進することとし、大別すれば以下のとおりである。</p> <p>① 子どもの見守りパトロール(学校の登下校を中心に活動)</p> <p>② 公園みまもり隊(不審者対策としてセンサーライトの設置等)</p> <p>③ 生活の中での見せる防犯(日常生活での防犯意識向上)</p> <p>また、これらの活動を通して一人でも多くの人と係わりを持つことが「地域力の向上」につながると考えた。</p>				
この事業を企画・実施した人	<p>環境部会メンバーを中心に学校側と協議しながら発案、実施。</p> <p>環境部会 近藤 照司</p>				
苦労した点	<p>地域の問題点は理解し、以下の事項について協議した。</p> <p>① 実際に活動するボランティア隊員数の確保</p> <p>② 活動主体(コミュニティ or PTA)の決定</p> <p>③ 隊員の高齢化に伴う活動の継続性、円滑な世代交代</p> <p>活動の発足から約 10 年後に上記の問題に直面する。</p>				
活動状況	<div style="text-align: center;">  <p>【子どもの見守りパトロール】</p> </div> <p>【緑道公園の清掃活動】</p> <div style="text-align: center;">  </div>				

コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	城北コミュニティ	代表者	鈴木 巖
事業名	ほくほく健康ポイント制度		事業費	90,000円	
事業の目的	城北地区のまちづくり計画の推進にあたり、保健部会の目標である「健やかな心とからだでいきいき生活を」の達成に向けて、一人でも多くの人々が健康への意識を高め、個人の健康づくりに留まらず、人と人とのつながりを大切にし、地域ぐるみで健康づくりに取り組んでいくための「きっかけ」とする。				
事業の概要	<p>この事業は、コミュニティで開催される保健部会の行事への参画により、保健部会で決定したポイントを付与し、そのポイント合計で特別賞、頑張賞、記念品を贈呈。</p> <p>また、この他にポイントを付与できる行事として、市が実施する健康相談や各種検診だけでなく、個人的に受診した検診も自己申告による加算や3人以上に行事への参加を呼びかける「声かけ行動」などがある。</p> <p>平成27年7月1日より本格実施。</p>				
この事業を企画・実施した人	保健部会メンバーを中心に発案、実施。 保健部会 中野 実千代				
苦労した点	<p>まず、この制度を知ってもらう広報の仕方や各種事業のポイント設定等。加えて、地域住民の健康意識が向上するために、何が必要なのかという「人の心理・行動面」に対する制度設定。</p>				





【 音楽療法(健康教室) 】

【 男性料理教室(バランス料理) 】




コミュニティ事業紹介カード

番号	3	団体名	城北コミュニティ	代表者	鈴木 巖
事業名	認知症 SOS ネットワーク		事業費	-----	
事業の目的	<p>近年、高齢化社会に伴い「認知症」を発症する事案が全国的に増加しており、福祉部会で身近な社会問題として2年前から多角的(学習、寸劇等)に取り組んできた。</p> <p>また、この問題は城北地区だけでなく近隣地域でも発生する確率も高いため、認知症患者に遭遇した場合の対応力の向上(勇気をもって声掛けする)を目的とした。</p> <p>一人でも多くの人々が「認知症」を理解することにより、地域全体が「人に優しいまちづくり」を目指した取り組みの一環である。</p>				
事業の概要	<p>この事業は、先述の事業目的にあるとおり「認知症」に対する理解を深めるために、福祉部会の役員と社会福祉協議会、市地域包括支援センター及び健康課職員が認知症患者役と通行人役、警察・社協役に別れ、様々なケースを想定した模擬訓練の実施と参加者による意見交換会を開催し、今後の課題について検討する。</p> <p>【意見交換会では、連絡先の優先順位や実践的な「お尋ねカード(項目の順番)」を作成してみてもどうかという意見があった。】</p>				
この事業を企画・実施した人	<p>福祉部会と社会福祉協議会及び市地域包括支援センター及び健康課職員を中心に発案、協議、実施。</p> <p>福祉部会 三村芳輝</p>				
苦労した点	<p>認知症という現代病を広く伝える「有効な活動手段」とは何かについて模索したこと。今回は、一般的な広報誌の作成や講演会の開催も考えたが、まずは自分たちが学習し、寸劇や模擬訓練を実施する体験・実践型の啓発活動とした。</p>				
活動状況	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">  <p>【事前説明】</p>  <p>【模擬訓練の様子】</p> </div>				

コミュニティ事業紹介カード

番号	1	団体名	天守閣のある町城西	代表者	会長 岡田 宣明
事業名	月見の会			事業費	約 10 万円
事業の目的	十五夜の月を愛で、自然を親しむ野外活動を通して、子ども達が豊かな心で地域の方々と交流し、楽しく健全に成長できることを目的とする。				
事業の概要	<p>実施時期：毎年十五夜の頃（H28.9.17）</p> <p>実施場所：史跡丸亀城跡 三の丸広場</p> <p>参加者：大人約 250 人 子ども約 250 人</p> <p>内 容：中秋の名月の意味を考えつつ、月を鑑賞し自然に親しむ。 また、月見団子やおにぎりを食べたり、音楽やダンスなどを楽しみ、地域の人たちとの交流を図る。</p>				
この事業を企画・実施した人	<ul style="list-style-type: none"> ・天守閣のある町城西（体育部会、子ども部会） ・城西小学校PTA 				
苦労した点	夏の終わりであり残暑の中での作業となることから、参加者に配布する多量の月見団子やおにぎり作りのほか、会場の城内三の丸までの照明装置などの運搬や設営に苦労した。				
活動状況	 				

コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	天守閣のある町城西	代表者	会長 岡田 宣明
事業名	むかし遊びの伝承		事業費	0円	
事業の目的	伝統的なむかし遊びを伝承することで、地域の方々との交流やつながりを深化させるとともに、世代の違いに思いを馳せることのできる健やかな心と体を育むことを目的とする。				
事業の概要	<p>実施時期：毎年1月（H29.1.19）</p> <p>実施場所：城西小学校</p> <p>参加者：城西小学校1年生 約70人 指導者 約30人</p> <p>内容：グループに分かれて、むかしながらの遊びを順番に体験する。生活科の授業の一環として行っている。 （主なむかし遊び）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹馬・お手玉・めんこ・あやとり・ビー玉・おはじき ・羽根つき・こま回し・まりつき・折り紙・缶ぽっくり 				
この事業を企画・実施した人	<ul style="list-style-type: none"> ・天守閣のある町城西（福祉部会、保健部会） ・城西母子愛育班 ・NPO丸亀まちづくりネットワーク ・城西小学校 ・1年生児童の祖父母、保護者 				
苦勞した点	むかし遊びの名人先生として遊びを教えることから、ある程度その遊びの経験があり、指導できる人を確保しなければならない。また、世代間の偏りで価値観や興味の相違が生じていることで苦勞した。				
活動状況					

コミュニティ事業紹介カード

番号	1	団体名	港、ふれあいのまち城乾	代表者	曾根 照正
事業名	認知症予防対策事業			事業費	200,000 円
事業の目的	高齢者対策と認知症対策を目的として実施している。				
事業の概要	認知症にかかるのを予防するために、軽い体操したり・考えたり・指先を使って作品(壁掛け・牛乳パックで椅子作り・七夕飾りなど)作りを行っている。開催は月1回程度で、民生委員・自治会長が中心となり福祉協力員の協力を得て開催している。開催場所は、コミュニティセンターでなく、高齢者でも歩いて行け、参加がしやすい各地区の自治会館・集会所で行っているのが、城乾独自の特徴である。				
この事業を企画・実施した人	城乾は当時、特に高齢者率が高いので、平成20年にコミュニティの「まちづくり計画」を作成時に各取り組みが始まった。最初は地域包括支援センターから指導者が来て、地域の福祉協力員の研修を行った。				
苦勞した点	苦勞しているのは、月1回以上行っているので、実施していることがマンネリ化しはじめていることや、参加者が固定化されてきていることである。また、地域の世話をする人が少ないことにも苦勞している。				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>壁掛け作り (幸町自治会館)</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>かるた取り (福新・みなと集会場)</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>牛乳パックで椅子作り (玉積集会場)</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>七夕飾り (西本町自治会館)</p> </div> </div>				

コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	港、ふれあいのまち城乾	代表者	曾根 照正
事業名	いぬいっ子クラブ			事業費	260,000 円
事業の目的	子育て支援（丸亀市放課後子ども教室）として実施している。地域のお年寄りの知恵と知識を子どもたちに伝え、幅広い世代間での交流と文化伝承の機会を創り出すことを目的としている。				
事業の概要	<p>夏休みのうちの13日間、城乾小学校の生徒(青い鳥教室の生徒除く)を対象にした教室を行っている。防災教室をはじめ、施設見学(警察署・消防署等)、地域の歴史探訪、香川高専詫間キャンパスの学生が講師となりLEDロボカー作り、学校の宿題(ポスター・習字・工作)、センターにある陶芸窯を使ってお皿・コップ等づくり、学校では学べない貴重な体験ができる事業である。</p> <p>27年度実施例…防災教室・習字教室・施設見学・ダーツ教室・ポスター作成・陶芸教室・地域の歴史探訪・環境教室・料理教室・工作教室・音楽鑑賞(二胡演奏)・運動教室(室内ペタンク)・ロボット工作</p>				
この事業を企画・実施した人	市からの呼びかけに応じて、前奥村会長が事業の実施を決断、前所長の小幡氏がコーディネーターとなって始めた。城乾コミュニティの「乾」の文字を取って、「いぬいっ子クラブ」と命名した。				
苦労した点	始めに、カリキュラムを一から作ることが大変で、それに伴う講師を探すのも苦労した。毎年、内容を少しずつ変えていき、参加者が喜ぶように工夫している。また、教室の内容が多岐にわたることから、スタッフの確保に苦労している。				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>陶芸教室</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>歴史探訪</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>ダーツ教室</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>二胡鑑賞(ストローで笛づくり)</p> </div> </div>				

コミュニティ事業紹介カード

番号	1	団体名	城坤コミュニティ	代表者	会長 玉井 弘一
事業名	ふれあい城坤 春まつり		事業費	40 万円	
事業の目的	城坤コミュニティの文化の祭典として、幼稚園や保育所、サークルなどの活動団体によるステージ発表や作品展示、バザー、体験コーナーを行い、文化活動を通じ、コミュニティ活動への参加を促す。				
事業の概要	<p>平成 28 年度は城坤小学校の体育館、中庭を利用し開催。体育館ステージでは城坤幼稚園、金倉保育所、しおや保育所、様々なサークルや同好会によるステージ発表を行なう。</p> <p>体育館各ブースでは、幼稚園、保育園の子どもの作品や生け花、ハガキ絵などの作品展示、体験コーナーでは子どもたちが無料で体験できるサイエンスコーナーやおりがみ、クラフト体験。その他血管老化度測定、防災コーナーなど子どもからお年寄りまで楽しめるよう工夫している。</p> <p>ステージ発表や作品展示をすることで地域の方の文化活動への意欲を高め、いきがづくりを図っている。</p>				
この事業を企画・実施した人	ふれあい城坤 春まつり実行委員会				
苦労した点	幅広い世代に参加してもらえるよう、地元の幼稚園、保育所や小学校などにチラシを配布したり、親子で楽しめる体験コーナーや地元企業の協力を得てバザーを行うなど工夫している。				

活動状況



コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	城坤コミュニティ	代表者	会長 玉井 弘一
事業名	ふれあい城坤 秋まつり			事業費	70万円
事業の目的	<p>地元企業や地域の方の協力などを得て、盛大に秋まつりを開催することにより、子どもからお年寄りまで幅広い世代の人たちが集まり、いろいろな世代の交流が図られている。毎年地域の方が楽しみにしている秋まつりである。</p>				
事業の概要	<p>城坤小学校運動場を会場に行われる秋まつりは、子どもたちによる演技や演奏、城坤地区の獅子舞乱舞、六光くじや各種バザーなど盛りだくさんのイベントを行なっており、子どもから大人まで楽しめ、毎年多くの方が参加している。コミュニティの人たちを中心に地域活動団体やPTAなど様々な人たちが関わって、準備、運営、片付けまでを行っており、地域の絆の力が発揮されている。</p>				
この事業を企画・実施した人	ふれあい城坤 秋まつり実行委員会				
苦勞した点	毎年、楽しみにしている人たちのために、様々なイベントや魅力あるバザーを準備している。				

活動状況



番号	3	団体名	城坤コミュニティ	代表者	会長 玉井 弘一
事業名	ろくごう夢クラブ (夏休み子ども教室)		事業費	35 万円 (委託事業)	
事業の目的	地域の方を講師に迎え、城坤小学校を利用し夏休みを利用したさまざまな体験学習を行なうと同時に子どもたちの居場所づくりを担っている。また地域の方を講師に迎えることにより、幅広い世代の交流を図っている。				
事業の概要	城坤小学校を利用し夏休みの前半と後半に分け 10 日間ずつ開催している。参加者は毎年約 100 名。地元の方を講師に迎え、生け花やお菓子作り、科学、クラフト、手芸、スポーツなど地元ボランティアの人たちの協力のもと、行なっている。夏休みの宿題や読書などの自習時間も設けている。学習だけでなく、地域の先生やボランティアの人たちと関わることで夏休みの子どもたちの居場所づくり、地域の方のいきがづくりにも役立っている。				
この事業を企画・実施した人	ふれあい城坤コミュニティ				
苦勞した点	お盆休みをはさむため、日程の調整に苦勞する。				
活動状況	   				

番号	4	団体名	城坤コミュニティ	代表者	会長 玉井 弘一
事業名	地域いきいき講座		事業費	一 万円	
事業の目的	生涯学習の一環として、1年間を通して様々な講座を開催し地域の方々に参加してもらい、いろいろな経験、学習をしてもらう。				
事業の概要	1年間を通して毎月第4金曜日に開催している。(1年間通して開催しているのは城坤コミュニティのみ) 主に高齢者を対象とした講座で、郊外学習も取り入れており、様々な経験を共にすることで参加者どうしの交流と親睦を図るなど、引きこもりがちな高齢者の居場所作りにも役立っている。				
この事業を企画・実施した人	ふれあい城坤コミュニティ				
苦勞した点	毎年、同じ講座にならないよう、また会員が楽しめるような講座メニューを考えている。講師の手配にも苦勞している。				



活動状況



コミュニティ事業紹介カード

番号	1	団体名	城南コミュニティ	代表者	香川 脩
事業名	みなみ月見の宴			事業費	-----
事業の目的	日本古来の月見の文化を通じて、地域住民の交流や活動を促進する。				
事業の概要	毎年中秋の名月の時期に、城南コミュニティセンター駐車場において開催。一組6名程度の升席で鍋を囲み、月を眺め、虫の声を聞きながら仲間や地域の方々と語り合い、親睦を深めている。				
この事業を企画・実施した人	婦人部、福祉ママ、老人クラブ、食改推進協議会				
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・野外のイベントであるため天候に左右される。 ・年によって鍋の材料である野菜の価格が高騰するなど、食材費の見込みが難しいが、一枡 9 千円の負担に収まるよう経費を抑える努力をしている。 				
活動状況					

コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	城南コミュニティ	代表者	香川 脩
事業名	歩け歩け運動		事業費	5万円	
事業の目的	健康増進や体力の維持向上を図ることを目的に、気軽に取り組めるウォーキングの普及促進を目指す。				
事業の概要	各自で行っている日常のウォーキング活動をカードに記録して、それを毎月コミュニティに報告してもらっている。 個人ごとに年間ウォーキング日数を集計し、100日を超えた方を毎年11月に開催する「ふれあいみなみのまつり」で表彰し、粗品を進呈している。				
この事業を企画・実施した人	体育部会				
苦労した点	城南地区は蓮池、田村池、山北新池などウォーキングコースにも恵まれており、カードは提出していないが、ウォーキングされている方は多いと思われる。今後は歩け歩け運動を広く知ってもらい、コミュニケーションの機会を増やしていきたい。				
活動状況	 				

コミュニティ事業紹介カード

番号	3	団体名	城南コミュニティ	代表者	香川 脩
事業名	八朔だんご馬づくり			事業費	5万円
事業の目的	地域に根付く伝統文化の継承、世代間の交流を目的とする。				
事業の概要	旧暦の八月一日八朔の日に、男の子の健やかな成長を願い、米の粉で「八朔だんご馬」をつくる風習にちなんで、毎年、地元の保育所、幼稚園の子どもたちが集まる中、だんご馬を作成して交流を図っている。				
この事業を企画・実施した人	社会部				
苦勞した点	だんご馬を作成することのできる後継者の育成が唯一の課題となっている。				
活動状況	 				

コミュニティ事業紹介カード

番号	4	団体名	城南コミュニティ	代表者	香川 脩
事業名	ひとり暮らしの高齢者訪問（防火診断）		事業費	6万円	
事業の目的	安否確認や情報提供などにより、ひとり暮らしの高齢者が地域で孤立することなく、安全で安心して生活できる地域づくりを進めていく。				
事業の概要	城南地区では防災訓練を隔年で実施しているが、訓練のない年に、消防団、婦人防火クラブ、福祉ママ、民生委員などで協力してひとり暮らしの高齢者を訪問している。訪問時には火災予防の注意喚起「火の用心」お札の配布をしており、防火相談にもものっている。 過去には火災警報機などの取り付けなども行った。				
この事業を企画・実施した人	福祉部が中心に地元消防団員、また、団本部の女性消防団員などと協力して行っている。				
苦勞した点	個人情報により、ひとり暮らしの世帯を把握するのが困難になってきており、個人の情報網などにも頼っている。				
活動状況					